

## しなやかな関係の輪を広めるために —レジリエンスをもった、妻の在り方に着目して—

森と木のクリエイター科 森林環境教育専攻 森田 水加穂

### 1. 背景と目的

日本では、家庭を顧みずに仕事をする人がまだまだ多い。環境教育の現場も例外ではない。人々をよりよい方向に導き続ける一方で、家庭を蔑ろにしている環境教育の実践者が多いとよく聞く。しかし、そのような在り方を見ても、次世代の若者は憧れを抱きにくく、むしろ敬遠してしまうのではないか。

そうした中、授業を通して、夫婦で互いを生かし合いながら、活動を展開する実践者たちに出会う機会に恵まれた。私はそこに、理想的な関係性を感じた。さらに、その関係を支えているカギは、夫ではなく、妻が握っているように感じた。妻の在り方のカギを探ると共に、それを広めていくことで、次世代の若者が将来の生き方として、憧れを抱く機会になるのではないか。

そこで本研究では、夫婦で互いを生かし合う実践者の妻へインタビューを行い、理想的な在り方のカギを探り、展示や SNS を通じて、その在り方を広めることで、若者が将来の自身の生き方として、憧れをもつ機会になりうるかを確かめることを目的とした。

### 2. 研究の流れ

#### ①基礎調査

#### ②実践と結果

—理想的な在り方のカギを探る

—理想的な在り方を広める

#### ③まとめ

#### ④今後の展望

### 3. 基礎調査

アカデミー在学中に出逢った夫婦の実践者をリストアップし、その中でも互いを生かし合っていると感じた夫婦をピックアップした。そして、授業「環境教育の現場を知る」で訪れた、次の3名を対象とした。

坂本道子さん：福井県大野市で、ノーム自然環境教育事務所を夫の均さんと共に約25年経営している。

金子美保さん：山梨県北杜市で、足本来の力を引き出す靴の販売をしている。はだしの専門家として働く夫の潤さんの顧客に靴の販売をするなど、仕事を連携している。

渡辺さとみさん：山梨県北杜市で、夫の明彦さんと虫や雑草と共生する農的暮らしをしている。

### 4. 実践と結果

#### (1) 理想的な在り方のカギを探る

以下の流れで、理想的な在り方のカギを探った。

① 妻へのインタビューを現地（仕事フィールドか生活の場）で実施する

② インタビュー内容から理想的な在り方のカギを探る

理想的な在り方のカギとして、三者に共通して4点を以下に示す。「」は本人たちの発言である。

#### ① 夫の良さ、才能に敬意をもつ

・「今日も笑って夢を語ってくれることが本当にうれしい（道子さん）」

・「持って生まれてるものがすごい輝いてる人なんだ（美保さん）」

#### ② 夫の持っている良さや才能が生かせるように動いている

・夢を形にするため、現実を見つつ、事務・経理・広報など、多くの仕事を担当する（道子さん）。

・彼の才能が輝くように、ほどよい距離で夫の動きを見て、「止めない」ことを徹底していた。（「そういう（やろうとしていることは）のは止めない」）また、夫のターニングポイントを察知し、最小限に踏み込んでいた（美保さん）。

#### ③ 夫に賛同するだけでなく、自分の考えを大事にしている

・夫をサポートするだけでなく、自身の考えを伝えている様子もある（道子さん）。

・夫との違いをいかに認めるかが大切だと語った。また、毎日3食一緒に食べ、長く話をしていた。穏やかな表情で、きっぱりと自分の意見を言いつつ、彼との意見をすり合わせる場面もあった（美保さん）。

#### ④ 夫との生活に関して、前向きな印象を持つ

・これからのについても、死ぬまで一緒に仕事することを「大変だけど幸せ」と表現する（道子さん）。

・これからの人生も「（問題や課題があっても）2人いたら絶対乗り越えられる」「この人がいたら大丈夫」と言っていた（美保さん）。

・夫が意欲的に創ってきた生活を「楽しい」「最高」と表現し、嘸みしめていた（さとみさん）。このように、妻たちは自分をもちながらも、夫の良さを認め、時にはいなしながら、しなやかに

生きていた。まさにレジリエンスである。そして、このしなやかな関係は、自然と共に生きることを志向し、自然界に流れるしなやかな関係性に多く触れているから生まれたものであることが分かってきた。

## (2) 理想的な在り方を広める

### ①理想的な在り方のカギをまとめ、形にする

理想的な在り方のカギとなるインタビュー内容、写真を使って、スライドを作った。2人の仕事や生活、妻の紹介、カギとなるインタビュー内容、在り方のキャッチコピーを基本構成とした。



### ②理想的な在り方を広める

#### SNSによる発信

成果物を note、facebook、Instagram に発信したが、どの媒体もコメントがなかった。また、facebook や Instagram では、今回の投稿を見た友人数名が、「見たよ」「面白いね」と声を掛けてくれた。興味自体はもってもらえたが、その詳細まで聞き取ることができなかった。

#### 森林文化アカデミーの学生向けの展示

学生約 60 名が受講する「森林文化」の授業の合間に見ることができるようパネル展示を行った。自由な感想を求め、16 名から回答を得た。「ハーモニーだなあって感じます」「夫婦の間に心の余白がある」など、夫婦の生き方に対する前向きな感想はあったものの、自身に言及するものは見られなかった。

#### 森林環境教育専攻内ゼミでの共有

森林環境教育専攻で行われたゼミの中で、成果物を共有した。その際、「どの内容が、在り方のカギなのかが分かりにくい」「言葉がありすぎて、何を見たらいいか分からない」と意見をもらった。

#### 成果物や発信方法の見直し

これまでの結果を経て、次の点を改善した。

- ① 初見の人に意味が伝わらない所を削除した
- ② 在り方が伝わる成果物に作り直した
- ③ 閲覧した感想を確実に回収できる形にする

多くの人の誠実な助言を受け、妻の在り方を効果的に伝え、読み手が読みやすい形に変更した。結果として、妻の在り方がストーリーとして感じられるページ構成にし、一人でじっくり見られるオンライン版冊子 (Heyzine) を作成し、閲覧者が自身を振り返るような回答フォームを作成した。



#### Heyzine による発信

10 代~30 代の若者向けに、オンライン版冊子 (Heyzine) 及び質問フォームを送り、57 名の回答を得た。属性としては、20 代が 7 割、女性が 7 割、未婚者が 8 割を占める。

将来の生き方として、過半数以上が彼女たちのような生き方をしてみたいと答え、自由記述でも過半数以上が「素敵」「いいな」と回答していた。比較的、女性が長い自由記述をし、妻の在り方に前向きな感想を示していた(「夫婦が同じ方向を向いて自然と共生しながら生きているのが素晴らしいと思う」等)。

具体的に身近な相手を思い浮かべる回答、自身の行動として参考にしたいとする回答など、自身の在り方を変えたいという回答があった。

- ・「ちょっとだけ結婚に前向きになった」、
- ・同棲している相手に対して「観察して良いところに目を向けたいと思った」
- ・付き合っている彼に合わせて夢を諦めようとしていたが、個人としてやりたいことを夫婦としてやりたいこととして捉え直したい。

一方で、将来のイメージが大きく変化した若者は少なかった。「女性が男性についていく構図」だと捉える回答も一定数あり、表現方法の工夫や対象者設定の少なさが課題として露出した。

## 5. まとめ

妻たちのしなやかな在り方を広めていく中で、その生き方を前向きに捉え、憧れる反応が見られ、生き方に影響を与える可能性があると感じる。特に一部の女性が興味を大きく示していた。

しかし、私が理想とする関係性を優先したり、私の感覚に頼ったりすることが多く、対象者選びやインタビューの仕方、カギの抽出に関して、多様で妥当な在り方を示すことができなかった。また、夫の意見を取り入れられていないこと、インタビューも 1 回しか実施していないことなど、在り方を十分に表現できていると思えない。

妻のしなやかな在り方を知ることによってニーズはあると感じており、今後すでに 2 名の方にインタビューを行う予定である。出てきた課題を昇華させて、妻の皆さんの在り方を誠実に、閲覧者に届けられるようにこの取り組みを届けていきたい。